

江戸後期に二代目立川和四郎富昌が建築

守られて社殿再建200年

茅野の山田区 壺井八幡社で記念祭



壺井八幡社200年祭で社殿に向かい、参拝する山田区民

茅野市市川の山田区にある壺井八幡社の社殿が再建から今年で200年を迎えたことから、同区は17日、200年記念祭を同神社で行った。覆屋を開き、約30人が参列して川流建築の二代目立川和四郎

これまでの地域の安寧と今後の発展を祈った。壺井八幡社は市指定有形文化財で現社殿は江戸時代後期の1824(文政7)年に立た。祝詞を奏上し、区役員の化財により神事が執り行われた。同日は恒例の区民文化祭の開催日でもあった。山田公会堂で区民の絵画、書写真などの作品が展示され、区内の子どもや各種団体が出演する演芸会が行われた。作品展の会場では200年祭に合わせて富昌が社殿建築を請け負った際に描いた下絵が公開された。訪れた多くの区民が地域の貴重な史料を見つめていた。田中孝治区長(2)は「200年の節目の年を無事に迎えることができた。これまで地域を支えた先人たちに思いをはせ、感極まった」と振り返り、五十嵐富昌は「社殿がこれらも地域の皆さんの手によって守られていくことを願う」と語った。(野村知秀)